やまと
社協だより
“住民ひとりひとりの参加を基本に
共に支えあう福祉のまちづくりを”
2020.8.15
No.235

社協ホームページはこちらから

社会福祉協議会（社協＝しゃきょう）は、市民の参加と協力によって運営され、地域福祉の推進を図る民間の組織です。

もくじ

表紙：大和市社協ふれあい特集 VOL.61（取組み編）
「持てる力をいかして、つながる・つなげる・笑顔の輪」……（1）～（2）
○市社協情報コーナー……（3）
○大和市社協職員募集……（4）
○すぐ話せる手話 NO.122 ／ふくしのこころみ～つけた！「暮らしの福祉探検隊」96……（5）
○大切にしますあなたの善意……（6）
○大和市子育て支援センター情報……（7）
○きて・みて・きいて／ぼしゅう・募集・ぼしゅう……（8）

市社協ふれあい特集 Vol.61（取組み編）
「持てる力をいかして、つながる・つなげる・笑顔の輪」

コロナ禍でも「“こんな時期だからこそ”自分に何かできないか」「何か手助けをしたい」と、行動された方々の取組みについて、次のページで詳しくご紹介します。

「たまたく」の手作りピザ

出来立てピザの無償提供の取組み

●この広報紙の財源には共同募金の一部をあてています。
●ユニバーサルデザインフォントの採用により、高齢者や障がいのある人、みなさんにとって「見やすい」紙面づくりに取組んでいます。

facebook やってます いいね!
大和市社会福祉協議会

市社協ふれあい特集 Vol.61（取組み編）
「持てる力をいかして、つながる・つなげる・笑顔の輪」

新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大し、緊急事態宣言下では外出の自粛や休業、休校など私達は様々な困難に直面しました。そういった状況下でも「“こんな時期だからこそ”自分に何かできないか」「何か手助けをしたい」と、行動された方々がいらっしゃいます。今回はそういう方々の取組みについてご紹介します。

自分のできることで、誰かの笑顔につなげたい

ドミノ・ピザ桜ヶ丘店のオーナー早坂祐輔さんから「社会福祉施設や介護施設の利用者の皆さんや現場で頑張っている職員の皆さんに出来たてのピザを無償でお届けしたい」と大和市社会福祉協議会やまとボランティアセンターに相談があったのは４月下旬の緊急事態宣言下のことでした。そこから、やまとボランティアセンターからお店の営業エリアにある桜丘・福田北・和田・渋谷西地区にある社会福祉法人にご相談させていただき、6 法人・15 の施設・事業所に、合計 117 枚のピザをお届けいただきました。

その中で、障がいのある人のグループホームでは、就労場所に行くことはもちろん、外出することも出来ず家族や友人とも会えない中で、出来立てピザ登場に、入所者のみなさんからは歓声が上がりました。「今までも食べていたはずのピザでしたが、今回格別なおいしさだったことがみなさんの笑顔からも伝わってきました」と職員の方からお話がありました。また、高齢者施設からは「休みたくても休めない介護職員を励ましたいとのエールのこもったピザに、感謝の思いでいっぱいです」や、「医療だけでなく、福祉分野でも日々コロナ対策に追われています。その中で民間企業が介護現場に目を向けてくれたこととコロナ禍に立ち向かおうという地域での一体感を感じ、とてもうれしかったです。ピザ一枚一枚にのったその気持ちを、利用者と職員みんなでいただきました」と、感謝の言葉をいただきました。

困っている人につなげられるように

下鶴間で毎月こども食堂を行っているたまめし食堂（主催：こども食堂プロジェクト＠やまと）も、緊急事態宣言下では、こども食堂を開催することが難しくなりました。小・中学校の休校措置や仕事の減少などにより経済的に厳しい状況に陥った家庭からこども食堂のメンバーにさまざまな相談が舞い込んできたそうです。そこでこども食堂のメンバー有志が、児童がいて経済的に厳しい家庭を対象に、「たまには宅配」で「たまたく」と名付け、社協やこども食堂への寄附物品を支援物資として配付する新たな取組みをはじめました。取材したこの日は、12 人のボランティアによる手作りお弁当やパンなどの食料品をダンボールに詰めて、22 世帯・75 食を対象のお宅にボランティアが届けました。「取組みを始めた時はボランティアが少なく、この取組みについても試行錯誤の連続でした。『コロナ禍で困難をかかえている人を支えたい』とボランティアと食材を提供してくれる団体や個人が増えました。その支えにより、支援の手が必要な家庭に差しのべられるようになりました」とメンバーの永井圭子さんは語ってくれました。

今回紹介させていただいた実践は、市内でもほんの一部の取組みです。マスク不足という事態を受けて手作りマスクを寄附していただく（6 ページ参照）など、コロナ禍で発生した課題解決のために、様々なひとが新たなアイディアや工夫を取り入れながら、「今・自分にできる」新しい福祉実践の模索と蓄積を行っています。その地道で着実な歩みが、どんなときもだれにもやさしい福祉社会づくりにつながるのではないでしょうか。

問合せ：やまとボランティアセンター　　TEL：046-260-5643